|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 「自立活動の授業の実際」協議資料　　　　【　学校名　〇〇立〇〇小学校　・　氏名　　　　　】  作成例 | | | | | | | | | |
| **子どもについて**  （一人の事例を取り上げます） | 所属　学年 | | 小学校　自閉症・情緒学級 　３年　　　　　担当人数（　　　人） | | | | | | |
| 障がい名等 | | （例）自閉症 | | | | | | |
| 実態把握に基づいて得られた指導すべき課題 | | （例）・自分の思いや考えを言葉で相手に伝えることが難しいことからコミュニケーションが課題であると考える。  ・気持ちを抑えることができず、思い通りにならないと、やっている活動から逃げることが見られることから、自己理解と行動調整について指導する。 | | | | | | |
| 今、指導すべき目標 | | （例）・手がかりを用いて、自分の思いや考えを相手に伝えようとすることができる。 | | | | | | |
| その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える | | | | | | | | | |
| 健康の保持 | | 心理的な安定 | | 人間関係の形成 | | 環境の把握 | 身体の動き | | コミュニケーション |
| ⑴ 生活のリズムや生活習慣の形成  ⑵ 病気の状態の理解と生活管理  ⑶ 身体各部の状態の理解と養護  ⑷ 障がいの特性の理解と生活環境の調整  ⑸ 健康状態の維持・改善 | | ⑴ 情緒の安定  ⑵ 状況の理解と変化への対応  ⑶ 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | | ⑴ 他者とのかかわりの基礎  ⑵ 他者の意図や感情の理解  ⑶ 自己の理解と行動の調整  ⑷ 集団への参加の基礎  ＊何の項目が関連しているか、チェックしてください。 | | ⑴ 保有する感覚の活  　用  ⑵ 感覚や認知の特性についての理解と対応  ⑶ 感覚の補助及び代行手段の活用  ⑷ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動  ⑸ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 | ⑴ 姿勢と運動・動作の基本的技能  ⑵ 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用  ⑶ 日常生活に必要な基本動作  ⑷ 身体の移動能力  ⑸ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | | ⑴ コミュニケーションの基礎的能力  ⑵ 言語の受容と表出  ⑶ 言語の形成と活用  ⑷ コミュニケーション手段の選択と活用  ⑸ 状況に応じたコミュニケーション |
| ・ | | ・ | | ・ | | ・ | ・ | | ・ |
|  | |  | |  | |  |  | |  |
|  | ・ | | | | ・ | | | ・  ＊指導内容との関連を図り、線でつなぎます。 | |
| 指導内容 | 〇　表情のイラストを手がかりに、気持ちを表す表現を知る活動に取り組む。 | | | | 〇　学習した表現を手がかりにして具体的なエピソードを聞いて、相手がどのような気持ちかを考える活動に取り組む。 | | | ＊場合によっては、指導内容が１つや２つの時もあります | |
| 指導場面 | 教育活動全体  時間における指導 | | | | 教育活動全体  時間における指導 | | | 教育活動全体  時間における指導 | |
| 授業の  実際 |  | | | | ＊指導内容を、実際にどのように行ったのかを、手立て等を交えながら記載してください。  ＊画像を掲載するときは、個人情報の配慮をお願いします。  記載に当たっては、本センター発行の「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック〔2020年版〕」p187～をご参照ください。 | | | ＊指導場面を確認し、〇で囲みます。 | |

提出期限・方法：令和３年１０月８日（金）　メールで下記アドレスに送付

提出先　　　　：福島県特別支援教育センター　special-center@fcs.ed.jp

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 「自立活動の授業の実際」協議資料　　　　【　学校名　〇〇立〇〇小学校　・　氏名　　　　　】  提出用 | | | | | | | | | |
| **子どもについて**  （一人の事例を取り上げます） | 所属・学年 | | ・　　年　　　　　　　　　　担当人数（　　　人） | | | | | | |
| 障がい名等 | |  | | | | | | |
| 実態把握に基づいて得られた指導すべき課題 | |  | | | | | | |
| 今、指導すべき目標 | |  | | | | | | |
| その目標達成に向けて、何の項目が関連しているか「必要な力」を考える | | | | | | | | | |
| 健康の保持 | | 心理的な安定 | | 人間関係の形成 | | 環境の把握 | 身体の動き | | コミュニケーション |
| ⑴ 生活のリズムや生活習慣の形成  ⑵ 病気の状態の理解と生活管理  ⑶ 身体各部の状態の理解と養護  ⑷ 障がいの特性の理解と生活環境の調整  ⑸ 健康状態の維持・改善 | | ⑴ 情緒の安定  ⑵ 状況の理解と変化への対応  ⑶ 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | | ⑴ 他者とのかかわりの基礎  ⑵ 他者の意図や感情の理解  ⑶ 自己の理解と行動の調整  ⑷ 集団への参加の基礎 | | ⑴ 保有する感覚の活  　用  ⑵ 感覚や認知の特性についての理解と対応  ⑶ 感覚の補助及び代行手段の活用  ⑷ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動  ⑸ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 | ⑴ 姿勢と運動・動作の基本的技能  ⑵ 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用  ⑶ 日常生活に必要な基本動作  ⑷ 身体の移動能力  ⑸ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | | ⑴ コミュニケーションの基礎的能力  ⑵ 言語の受容と表出  ⑶ 言語の形成と活用  ⑷ コミュニケーション手段の選択と活用  ⑸ 状況に応じたコミュニケーション |
| ・ | | ・ | | ・ | | ・ | ・ | | ・ |
|  | |  | |  | |  |  | |  |
|  | ・ | | | | ・ | | | ・ | |
| 指導内容 |  | | | |  | | |  | |
| 指導場面 | 教育活動全体  時間における指導 | | | | 教育活動全体  時間における指導 | | | 教育活動全体  時間における指導 | |
| 授業の  実際 |  | | | |  | | |  | |